

鑄物鉄の国別輸入推移(暦年)

輸入元	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	合計
ロシア	79420	52679	60155	41052	45407	38444	44770	54720	58914	23072	498633
ブラジル	35025	13520	14412	8306	15738	16392	9802	7577	7221	3537	131530
南アフリカ	30073	15946	22002	22978	17259	11055	24959	12200	30323	7006	193801
中国	3573				21	2880	1050	200		210	7934
カナダ										7050	7050
台湾				63		210			210		483
インド							323				323
韓国			20	2861							2881
ウクライナ		138									138
ベトナム	99										99
合計	148190	82283	96589	75260	78425	68981	80904	74697	96668	40875	842872

財務省通関統計(単位トン)

2020年の鑄物鉄の国別輸入量(トン)と価格(円/トン当たり)の推移

	ロシア		ブラジル		南アフリカ		カナダ		中国		輸入量合計
	輸入量	価格	輸入量	価格	輸入量	価格	輸入量	価格	輸入量	価格	
1月	0		108	48700	0		0		0		108
2月	7838	43700	1254	52000	0		0		0		9092
3月	0		564	46000	0		0		0		564
4月	0		0		0		0		0		0
5月	20	51600	210	47500	0		0		0		230
6月	0		680	48300	0		0		0		680
7月	4428	41900	200	45700	0		7050	52300	0		11678
8月	0		105	43000	0		0		0		105
9月	4121	42000	108	45500	0		0		0		4229
10月	1600	42200	0		3000	47900	0		0		4600
11月	5045	42900	0		1996	48500	0		210	59900	7251
12月	20	50200	308	54400	2010	46500	0		0		2338
合計	23072		3537		7006		7050		210		40875

財務省通関統計



鑄物鉄の日本向けの出荷は減少傾向に

鑄物鉄輸入5万トン割れ

20年直近10年で最低に

財務省の通関統計によると、2020年の鑄物用鉄の輸入量は前年比57・7%減の4万8755トンで、直近の10年間で最低水準に陥った。輸入量が10万トンを下回るのは9年連続で、5万トンを割り込むのはここ10年で初めて。新型コロナウイルスの感染拡大による経済活動の停滞で、国内の鑄物鉄需要が低調なほか、インフラ投資で需要が堅調な中国などに輸入鉄がシフトしている可能性もある。

需要低調、中国シフトも

20年に鑄物鉄の輸入があったのは5カ国。このうちロシア、ブラジル、南アフリカの主要3カ国は軒並み前年の半分未満に減少。直

近の10年間でそれぞれ最低に陥った。内訳を見ると、輸入量の最も多いロシア鉄は前年比60・8%減の2万3072トンと落ち込み、この10年で初めて3万トンを下回った。前年割れは4年ぶり。

これに対し、ブラジル鉄は同51・0%減の3537トンと4年連続で減少。この10年で初めて1万トンを割り込んだ。一方、20年7月にはカナダから7050トンのスポット調達があった。カナダは「ケベック鉄」などで知られるが、少なくとも1988年以降の通関統計で鉄鉄輸入の実績はなかった。

このほか、わずかが中国鉄で210トンのスポット調達があった。入着は2年ぶり。台湾やインド、韓国などそれ以外の国からの輸入はなかった。

12月の輸入鉄2338トン

前月比68%減 ロシア鉄が大幅減

財務省の通関統計によると、2020年12月の鑄物用鉄の輸入量は2338トンで、前月比67・8%の減少となった。ロシア鉄の大幅減が要因で、前月を下回るのは4カ月ぶり。

12月のトン当たりの平均価格(CIF)は運賃・保険料込みで約4万7600円。ロシア鉄は20トンの微量にと

どまり、前月の5045トンから大幅に縮小した。価格は前月より7300円高い5万200円だった。微量とはいえ、5万円台に乗るのは7カ月ぶり。

鉄鉄鑄物生産1月微増

鑄鋼・アルミ・銅は減少

経済産業省が発表した1月の生産動向統計(速報)によると、鉄鉄鑄物の生産量は前年同月比0・5%増

の24万9636トンとなった。前年同月を上回るののは3カ月連続だが、上げ幅は縮小した。世界的な半導体

不足で自動車やスマートフォンの生産にブレーキがかかった影響が製造業にも及んでいるとみられる。リーマン・ショック前の2007年の水準を100

12月の鉄鉄鑄物生産確報

産機用25カ月ぶり増

日本鑄造協会がまとめた2020年12月の鉄鉄鑄物生産状況によると、鉄鉄鑄物の生産量(確報)は、産機機械用が25カ月ぶりに前年同月を上回った。また、自動車など輸送機械用が増加を

11・9%増の2万6892トンと拡大し9カ月ぶりに増加したためだ。しかし、金属加工・加工機械用は同5・1%減の6576トンと25カ月連続で前年同月を下回った。

2カ月連続で増加した。生産額は同2・5%増の556億2500万円、2カ月連続の増加。生産量の内訳を見ると、一般・電気機械用は同5・7%増の6万6729トンと

一方、輸送機械用は同6・4%増の18万4476トンと3カ月連続で増加した。大半を占める自動車用は同6・1%増の17万1625トンと4カ月連続で増



世界的な半導体不足の影響が広がり、鑄造業も自動車向けなどにブレーキがかかる

この結果、鉄鉄鑄物全体の生産量は前年同月比5・3%増の26万2410トンと

加。その他の輸送機械用が同10・4%増の1万2851トンと2カ月連続で前年同月を上回った。